

単元名 漢字の音と訓

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 第3学年までに配当されている漢字を読むことができる。
 (3) 漢字の音と訓に関心を持ち、よりよく漢字を学ぼうとする。

標準的な展開例

03010108_001

【教材名】漢字の音と訓 (上 P. 38～P. 39)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 漢字の読み方に「音」と「訓」があることを知り、特徴を理解する。 ★漢字の「音」と「訓」について知ろう。 ○同じ漢字に二通りの読み方があることに着目し、音と訓の特徴を理解する。</p> <p>○音訓二通りの読み方がある理由を知る。 ・漢字は中国で生まれたこと ・訓読みは日本の古くからの読み方に由来していること</p> <p>○音訓の両方を習った漢字を使って文を作り、発表する。</p> <p>2 漢字の読みの使い分けについて習熟する。 ★漢字の「音」と「訓」を使い分けよう。 ○教科書 (P. 39) の問題を解く。</p> <p>○音と訓を判別する問題を作る。</p> <p>○作った問題を出し合い、交流して楽しむ。</p>	<p>・教科書 (P. 38) 下段の「朝」の二通りの読み方を見て、児童の気づきを大切にしながら確認する。</p> <p>・教科書 (P. 38～39) の説明を読み、分かりにくい点は補足説明する。</p> <p>・児童によく定着している漢字を例に、二通りの読み方を使った文を作らせる。児童の実態に応じて一文に両方が入った文に挑戦させてもよい。</p> <p>【評】漢字の音読みと訓読みについて理解し、文を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・前時の学習を想起し、音と訓の特徴を使って予想してから、教科書 (P. 148～151) 「これまでに習った漢字」で確認させる。</p> <p>・「これまでに習った漢字」を活用して短い文を考えさせる。</p> <p>・グループで問題を交換し、お互いに音と訓を判別し合う。</p> <p>【評】習った漢字の音読みと訓読みを調べて問題を作る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】